

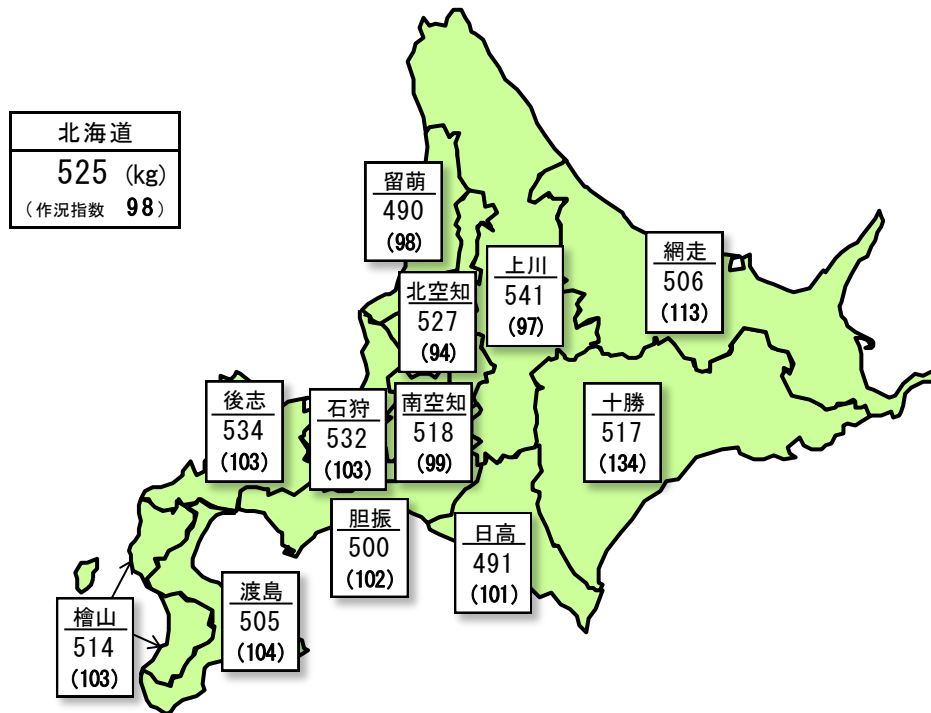
平成22年産水稲の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在） （北海道）

－ 10a 当たり予想収量は525kg（作況指数98）の見込み －

【調査結果の概要】

- 1 北海道における平成22年産水稲の作付面積（子実用）は11万4,600haで、前年産に比べて200ha増加した。
うち、主食用作付見込面積は、11万2,400haが見込まれる。
- 2 10月15日現在における水稲の作柄は、10a 当たり予想収量525kg（作況指数98）が見込まれる。
- 3 以上の結果、予想収穫量（子実用）は、60万1,700tが見込まれる。
また、主食用作付見込面積に10a 当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は59万100tが見込まれる。

図 作柄表示地帯別10a 当たり予想収量（10月15日現在）



平成22年産水稲作付面積及び予想収穫量収量（10月15日現在）

区分	作付面積（子実用）		10a 当たり予想収量		予想収穫量（子実用）		（参考）				
	①	前年産との比較		②	③=①×②	対差	対比	④	⑤=④×②	⑥	⑦=②/⑥
		ha	ha								
北海道	114 600	200	100	525	601 700	58 300	111	112 400	590 100	535	98

- 作付面積（子実用）とは、青刈り用の面積を除いた面積である。
- 主食用作付見込面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む）から、需給調整の取組として取り扱う米穀等（加工用米、新規需要米等）の面積を除いた面積（見込み）である。
- 作況指数とは、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり予想収量の比率である。

【調査結果】

1 作付面積

平成22年産水稻の作付面積（子実用）は11万4,600haで、前年産に比べて200ha増加した

これは、戸別所得補償モデル対策の実施により、加工用米及び新規需要米への取り組みが進み、他作物からの転換等が行われたためである。

なお、青刈り面積を含む水稻作付面積から、需給調整の取組として取り扱う米穀等（加工用米、新規需要米等）を除いた主食用作付見込面積は、11万2,400haが見込まれる。

2 作柄の概況

10月15日現在における北海道の水稻の作柄は、登熟は良好であることが見込まれるものの、平年に比べて穂数が少なく全もみ数が少なくなったことから、10a当たり予想収量は525kg（作況指数98）が見込まれる。

全もみ数が平年に比べ少なくなったのは、穂数が田植え直後の低温・日照不足等による植え傷みに加え、6月上旬以降の高温の影響により分けつ発生期間が短縮されたことによって少なくなったためである。

登熟は、出穂・開花期以降、平年を上回る気温・日照時間で経過したことから粒の充実は平年を上回ると予想されるため、良が見込まれる。

3 予想収穫量

以上の結果、予想収穫量（子実用）は、60万1,700tが見込まれる。

また、主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は59万100tが見込まれる。

【統計表】

1 平成22年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）

区 分	作付面積 (子実用)			10 a 当たり 予想収量	予想収穫量 (子実用)	(参考)	
	①	前年産との比較				10 a 当たり 平年収量	作況 指数
		対 差	対 比				
	ha	ha	%	kg	t	kg	
北海道	114 600	200	100	525	601 700	535	98
石 狩	7 800	△ 70	99	532	41 500	518	103
南空知	23 400	0	100	518	121 400	525	99
北空知	29 200	200	101	527	153 800	558	94
上 川	30 600	200	101	541	165 300	555	97
留 萌	4 630	10	100	490	22 700	499	98
渡 島	3 010	20	101	505	15 200	486	104
檜 山	4 220	20	100	514	21 700	500	103
後 志	4 940	△ 70	99	534	26 400	517	103
胆 振	3 810	△ 50	99	500	19 100	488	102
日 高	1 710	△ 50	97	491	8 420	484	101
十 勝	19	1	106	517	98	386	134
網 走	1 200	△ 70	94	506	6 090	447	113

注：1 ラウンドの関係で、計と内訳が一致しないことがある。

2 表中の「△」は減少を示す。

2 平成22年産水稻の刈取期及び刈取済面積割合（10月15日現在）

区 分	刈 取 期					刈取済面積割合	
	始 期	最盛期	終 期	最盛期の比較		%	ポイント
				対平年	対前年		
	月 日	月 日	月 日				
北 海 道	9. 10	9. 18	9. 25	11日早	17日早	100	1
石 狩	9. 10	9. 17	9. 24	12日早	18日早	100	0
南空知	9. 10	9. 16	9. 22	11日早	17日早	100	0
北空知	9. 10	9. 19	9. 24	10日早	15日早	100	0
上 川	9. 9	9. 17	9. 25	11日早	17日早	100	1
留 萌	9. 12	9. 19	9. 25	7日早	10日早	100	1
渡 島	9. 12	9. 19	9. 27	16日早	22日早	100	3
檜 山	9. 9	9. 16	9. 24	17日早	21日早	100	4
後 志	9. 10	9. 17	9. 26	11日早	16日早	100	1
胆 振	9. 12	9. 20	9. 27	12日早	18日早	100	4
日 高	9. 14	9. 18	9. 24	15日早	19日早	100	2
十 勝	9. 10	9. 16	10. 9	19日早	24日早	100	5
網 走	9. 5	9. 12	9. 20	20日早	26日早	100	1

注：刈取期の始期とは刈取済面積割合が5%、最盛期は同50%、終期は同95%にそれぞれ達した期日である。

【関連するデータ、情報】

◎ 水稻調査結果の利活用

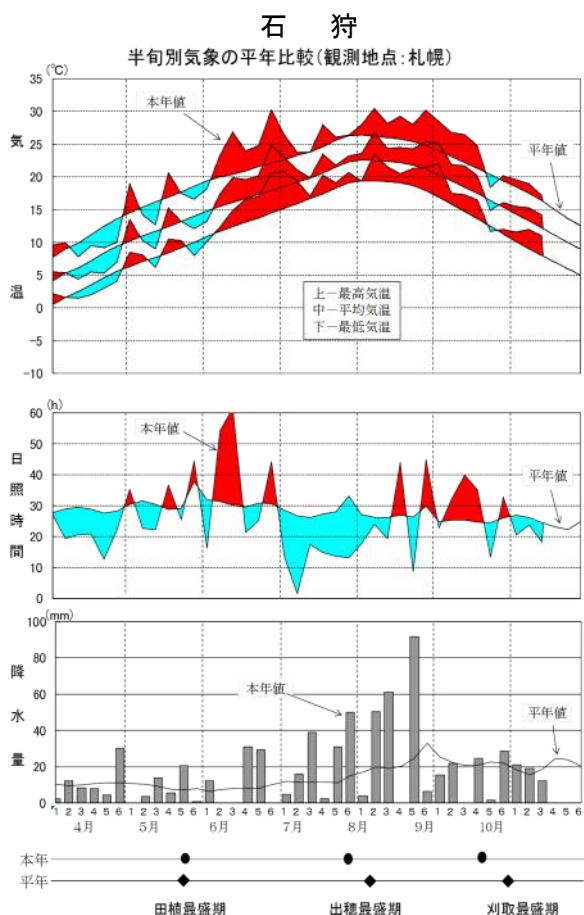
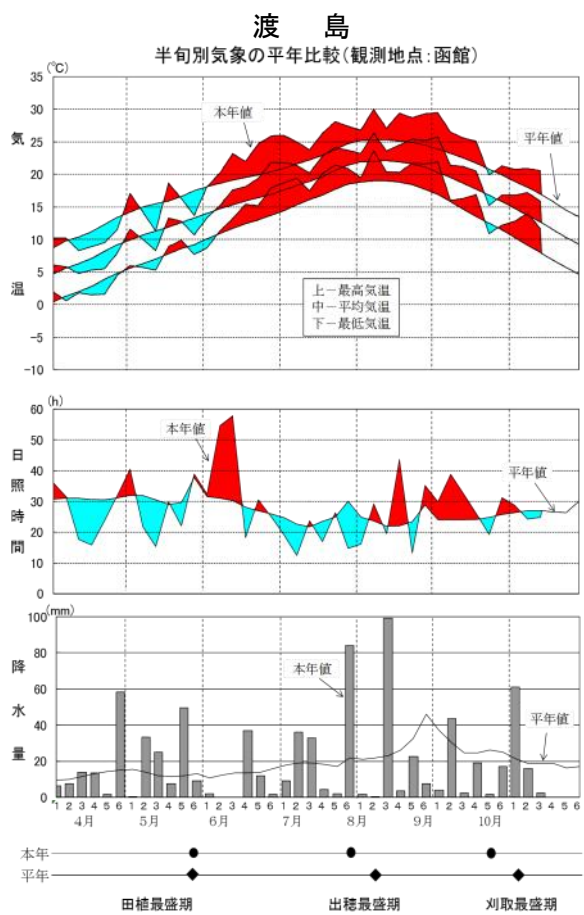
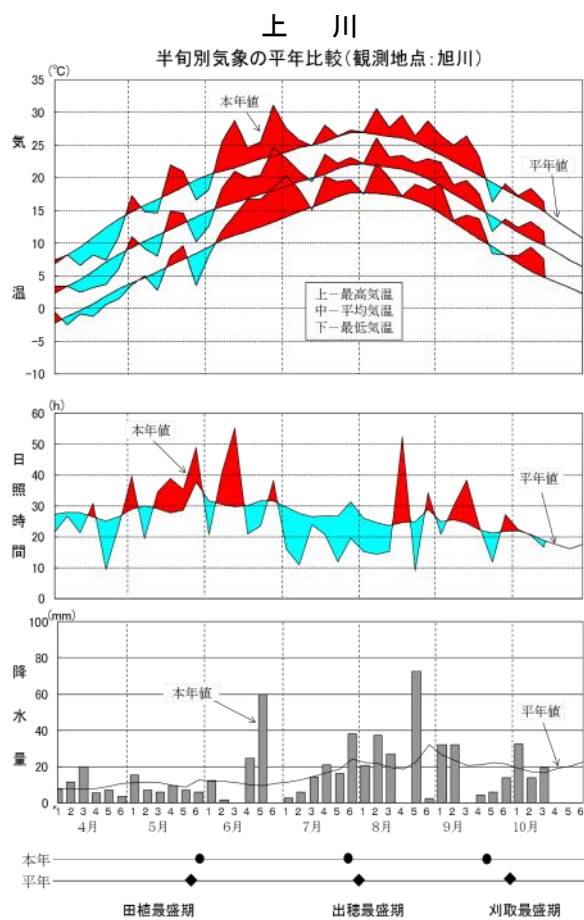
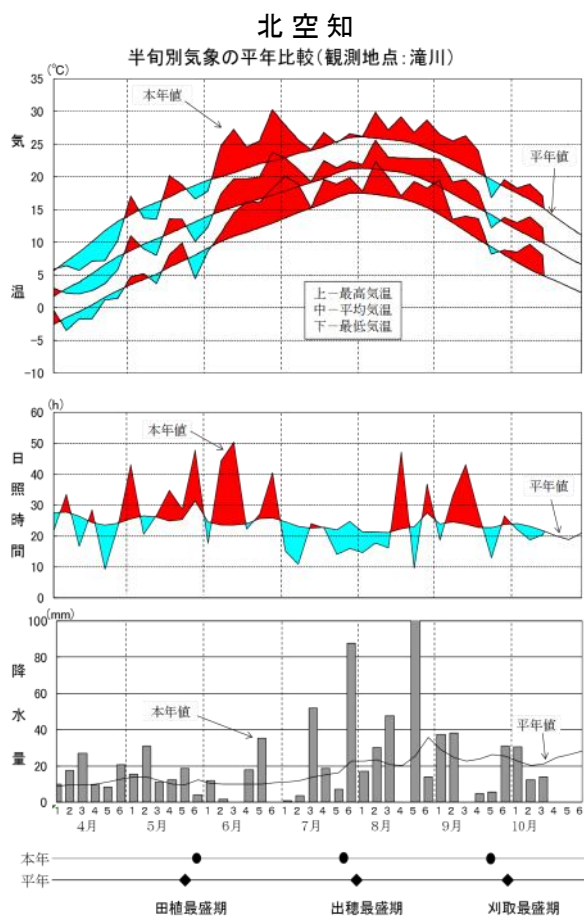
- ・ 「主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律」に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針、及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 「食料・農業・農村基本計画」における生産数量目標の策定及び達成状況の確認のための資料
- ・ 農業災害補償法に基づく農作物共済事業において共済基準収穫量算定のための資料

◎関連データ

1 水稻（子実用）の年次別推移（北海道）

年 産	作付面積	10 a 当たり 収 量	収穫量	作況指数	10 a 当たり 平年収量
	ha	kg	t		kg
平成 12	134 900	540	729 100	103	526
13	122 000	526	642 100	100	526
14	120 200	482	579 800	91	528
15	117 800	385	454 000	73	528
16	120 500	518	623 900	98	528
17	119 100	573	682 600	109	528
18	115 400	558	643 900	105	530
19	116 000	520	603 200	98	532
20	114 600	565	647 500	106	534
21	114 400	475	543 400	89	535

2 気象経過と生育ステージ(主な観測地点)



資料: 「アメダス気象データ」

【参考1】

平成22年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況及び10a当たり収量内訳（北海道）

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は農産物規格規程三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としている（【参考2】参照）。

農家等が販売するために使用している選別ふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、刈取り済みの地域について、ふるい目幅の重量割合とふるい目幅別10a当たり収量を示すと次のとおりである。

単位 〔重量割合：％
平均対差：ポイント〕

区分 地帯	合計	ふるい目幅							
		2.10mm以上	2.00mm	1.95mm	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.70mm	
北海道	重量割合 本年値	100.0	53.1	31.9	6.6	3.7	1.8	1.3	1.6
	平均対差		12.9	△ 5.7	△ 3.6	△ 2.4	△ 0.8	△ 0.4	0.0
石狩	重量割合 本年値	100.0	58.6	26.1	7.3	3.7	2.1	0.9	1.3
	平均対差		21.7	△ 10.1	△ 5.0	△ 3.4	△ 1.9	△ 0.9	△ 0.4
南空知	重量割合 本年値	100.0	55.7	29.9	6.6	3.2	2.0	1.2	1.4
	平均対差		18.2	△ 6.4	△ 5.8	△ 3.1	△ 1.0	△ 1.3	△ 0.6
北空知	重量割合 本年値	100.0	54.0	32.2	5.3	3.4	1.5	1.6	2.0
	平均対差		10.1	△ 5.5	△ 2.9	△ 1.9	△ 0.2	0.0	0.4
上川	重量割合 本年値	100.0	60.2	28.4	4.9	2.7	1.5	1.0	1.3
	平均対差		17.4	△ 10.6	△ 3.6	△ 2.7	△ 0.6	0.0	0.1
留萌	重量割合 本年値	100.0	54.1	33.0	5.5	3.3	1.3	1.3	1.5
	平均対差		6.4	△ 3.3	△ 1.9	△ 0.7	△ 0.6	0.0	0.1
渡島	重量割合 本年値	100.0	55.9	29.1	6.3	3.4	1.9	1.5	1.9
	平均対差		11.5	△ 6.4	△ 3.2	△ 2.0	△ 0.5	△ 0.1	0.7
檜山	重量割合 本年値	100.0	50.3	33.0	7.4	3.7	2.2	1.5	1.9
	平均対差		13.7	△ 5.3	△ 5.3	△ 2.2	△ 0.9	△ 0.3	0.3
後志	重量割合 本年値	100.0	48.4	36.3	6.6	4.0	1.8	1.4	1.5
	平均対差		13.8	△ 4.0	△ 5.4	△ 2.8	△ 1.2	△ 0.5	0.1
胆振	重量割合 本年値	100.0	43.4	41.9	8.1	2.9	1.5	1.0	1.2
	平均対差		13.8	△ 1.2	△ 5.4	△ 4.6	△ 1.4	△ 0.8	△ 0.4
日高	重量割合 本年値	100.0	47.3	33.4	6.5	5.5	3.1	1.6	2.6
	平均対差		11.6	△ 4.9	△ 4.1	△ 2.8	△ 0.6	0.0	0.8
網走	重量割合 本年値	100.0	27.6	42.1	15.0	8.9	2.4	2.2	1.8
	平均対差		11.4	8.4	△ 5.8	△ 9.8	△ 3.1	△ 1.0	△ 0.1

単位：kg

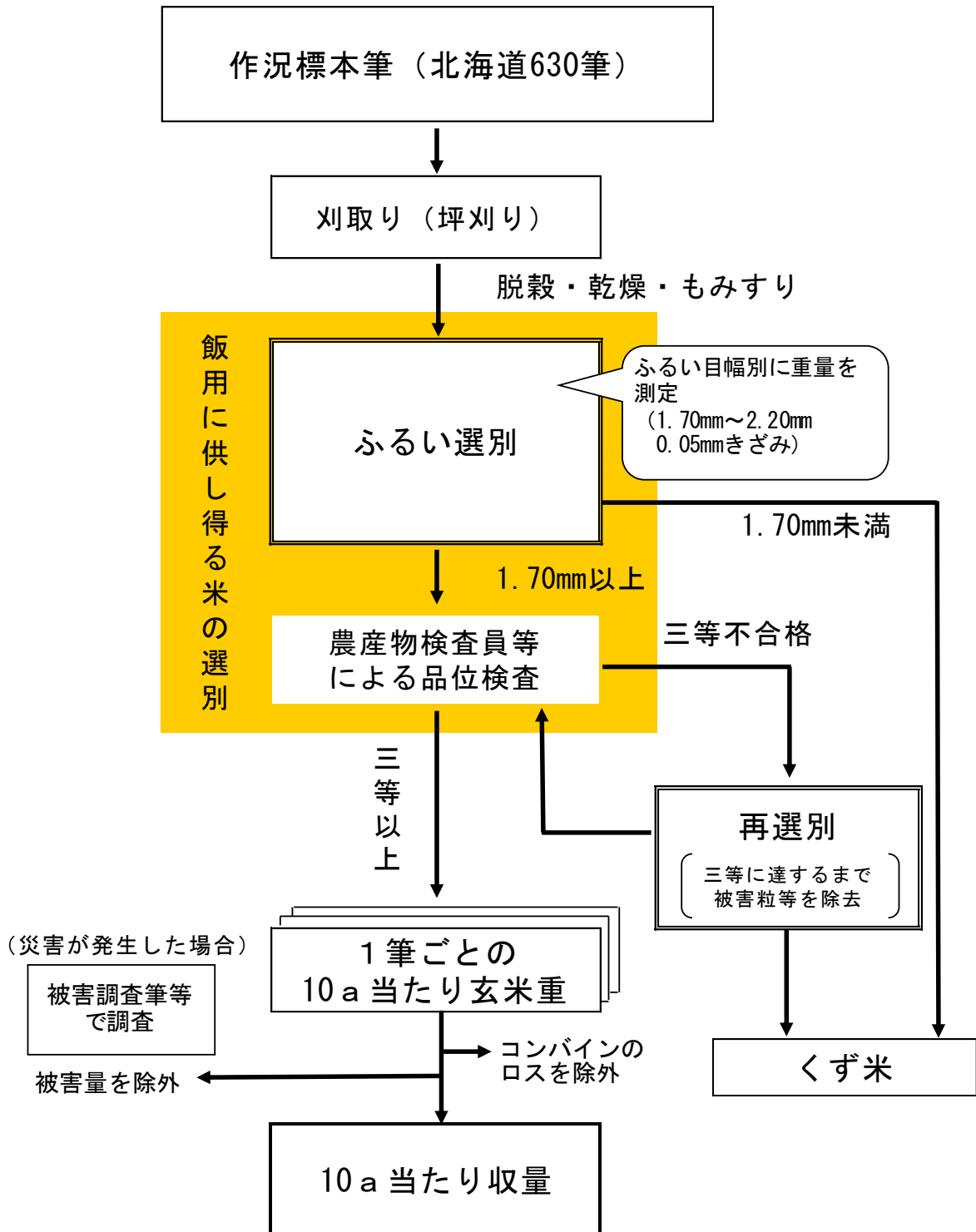
区分 地帯	10a 当たり 収量 〔1.70mm 選別〕	選別ふるい目幅別10a 当たり収量					
		2.10mm	2.00mm	1.95mm	1.90mm	1.85mm	1.80mm
北海道	525	279	446	481	500	510	517
石狩	532	312	451	489	509	520	525
南空知	518	289	443	478	494	505	511
北空知	527	285	454	482	500	508	516
上川	541	326	479	506	520	529	534
留萌	490	265	427	454	470	476	483
渡島	505	282	429	461	478	488	495
檜山	514	259	428	466	485	497	504
後志	534	258	452	488	509	519	526
胆振	500	217	427	467	482	489	494
日高	491	232	396	428	455	470	478
網走	506	140	353	429	474	486	497

- 注：1 平均対差に用いた平均値は、直近5カ年の重量割合の平均値である。
 2 選別ふるい目幅別10a 当たり収量とは、表頭のふるい目幅を使用した際に得られる10a 当たり収量のことである。
 3 未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる。

【参考2】

水稻収穫量調査の流れ

水稻収穫量調査は、飯用に供し得る米の全量を把握することを目的として、作況標本筆ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測している（下図参照）。



【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び水稲調査の中の予想収穫量調査として実施し、水稲の作付面積、作柄状況、予想収穫量を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農林水産行政推進のための資料とすることを目的としている。

2 調査対象数

(1) 作付面積調査

標本単位区：1,591単位区 巡回・見積り：179市町村

(2) 作柄概況調査

作況標本筆：630筆 作況基準筆：53筆 巡回・見積り：179市町村

3 調査事項

水稲の作付面積、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況、耕種状況。

4 調査期間

(1) 作付面積調査：7月15日現在

(2) 予想収穫量調査：10月15日現在

5 調査方法

(1) 作付面積調査

調査は、標本単位区に対する職員及び統計調査員による実測調査並びに職員による巡回・見積りにより行った。

(2) 作柄概況調査

調査は、作況標本筆、作況基準筆及び被害調査筆に対する職員による実測調査並びに作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより行った。

6 集計方法

(1) 作付面積調査

対地標本実測調査結果及び巡回・見積り結果により取りまとめている。

(2) 予想収穫量作柄概況調査

調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより補完して取りまとめている。

7 用語の解説

(1)「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WCS用稲、わら専用稲等を含む）のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を指す。

(2)「作況指数」とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり予想収量の比率である。

(3)「10a当たり平年収量」とは、水稲の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a当たり収量をいう。

8 作柄表示地帯

北海道における作柄表示地帯は、下表のとおりである。

作柄表示地帯	対 象 地 域
石 狩	札幌市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、石狩振興局管内
南 空 知	夕張市、岩見沢市、美瑛市、三笠市、空知総合振興局管内のうち南幌町、由仁町、長沼町、栗山町、月形町
北 空 知	芦別市、赤平市、滝川市、砂川市、歌志内市、深川市、空知総合振興局管内のうち奈井江町、上砂川町、浦臼町、新十津川町、妹背牛町、秩父別町、雨竜町、北竜町、沼田町、上川総合振興局管内のうち幌加内町
上 川	旭川市、稚内市、士別市、名寄市、富良野市、上川総合振興局管内のうち鷹栖町、東神楽町、当麻町、比布町、愛別町、上川町、東川町、美瑛町、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村、和寒町、剣淵町、下川町、美深町、音威子府村、中川町、留萌振興局管内のうち天塩町、宗谷総合振興局管内
留 萌	留萌市、留萌振興局管内のうち増毛町、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町
渡 島	函館市、北斗市、渡島総合振興局管内
檜 山	檜山振興局管内
後 志	小樽市、後志総合振興局管内
胆 振	室蘭市、苫小牧市、登別市、伊達市、胆振総合振興局管内
日 高	日高振興局管内
十 勝	釧路市、帯広市、十勝総合振興局管内、釧路総合振興局管内
網 走	北見市、網走市、紋別市、根室市、オホーツク総合振興局管内、根室振興局管内

9 その他

(1) 統計数値については、以下の方法によって四捨五入しており、合計と内訳の計が一致しないことがある。

原 数	7 けた以上 (100万)	6 けた (10万)	5 けた (万)	4 けた (1 000)	3 けた以下 (100)	
四捨五入するけた (下から)	3 けた	2 けた		1 けた	四捨五入しない	
例	四捨五入する前	1 234 567	123 456	12 345	1 234	123
	四捨五入した数値	1 235 000	123 500	12 300	1 230	123

(2) 表中の「△」は減少したものを示す。

この統計調査結果は、北海道農政事務所ホームページ中の「統計情報」－「農林水産統計」(分類は「農産物の生産・流通」)に掲載しています。

ホームページアドレス <http://www.maff.go.jp/hokkaido/toukei/kikaku/sokuho/index.html>

【問い合わせ先】

農林水産省 北海道農政事務所 統計部

本公表資料に関する問い合わせ先

生産流通消費統計課 生産統計第2係

電話 : (011) 642-5619 (ダイヤルイン)

その他農林水産統計資料に関する問い合わせ先

統計企画課 企画係

電話 : (011) 642-5609 (ダイヤルイン)